

IPNU

キャンパスネット



2011.10 OCT. Vol.20

学長就任にあたって



学長 石垣 和子

この4月に就任させていただきました。皆様どうぞよろしくお願いたします。

まずは簡単な自己紹介をいたします。私は、48歳の時に保健師をやめて教員の道に入り、国立大学3校、県立大学1校を歩き、この大学が5つ目です。私の年代の看護教員が日本には少なく、背伸びをして(させられて)看護系大学協議会の仕事や文部科学省の仕事などをしてまいりました。これからは踵を地につけ、我に返ります。私の経験は微々たるものですが、もしお役にたつのなら使っていただきたいと思ひます。

しかし如何せん私はこの大学の素人であり、教えていただくことが山のようにあります。皆様も菌がゆい思いをすと思ひますが、少し長い目で見ていただければありがたいです。

私は石川県・北陸という土地が以前から好きで、冬でも雪に負けずにきっと元気でいられると信じております。毎日耳にする方言には東京にはない暖かさが詰まっているようで幸せな気持ちになります。きちんと仕事もしなくてはいけないことは分かっていますが、遊び心がすぐに頭をもたげる性格で、夕日に誘われて海岸を走りたくなる(もちろん車です)誘惑にすでに何回か負けました。

さて、着任と同時に大学が法人化になり、私も皆様と同様、いえ皆様の後ろについて一から始めなければなりません。この大学が誇れる人材を育てられるよう、そして教員が個性豊かに生き生きと励めるよう、地域の方々と同じ目線で生活や健康づくりを考えられるよう、法人との架け橋や地域との関係づくりなども含めて私の立場でできることを見つけてやっていきたいと思ひています。

もう一度、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

目次

学長就任にあたって	1	卒業生に聞く	
大学の主な動き		助産学専攻科進学の実験記	5
第12回入学式	2	保健師就職の実験記	5
地域課題研究ゼミナール支援事業 最優秀賞受賞	2	県外大学病院就職の実験記	5
法人化にあたり		看護教諭特別科進学の実験記	5
開学記念行事 5月28日(開学記念日 5月29日)	3	キャンパスライフ	
オープンキャンパス	3	フィールド実習	6
新任教員紹介	4	小児看護学実習 I	6
東日本大震災への保健師派遣に参加して	4	IV段階実習(在宅看護学実習・地域看護学実習)	6
JICA研修員受入れ事業		サークル紹介 ボランティアサークル	6
JICAタジキスタン共和国フォローアップ調査	4	大学祭のお知らせ	7
JICA/パラグアイ日系研修	4	国家試験対策と国家試験結果	8
ワシントン大学学術交流事業		地域ケア総合センターから	8
ワシントン大学客員研究員	5	キャンパススケジュール 2011年度後期	8

石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

看護学部看護学科
大学院看護学研究科

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

大学の主な動き

第12回入学式

平成23年4月6日、石川県立看護大学入学式が挙行されました。石川県知事 谷本正憲様はじめ、石川県医師会副会長、看護協会長、後援会会長のご臨席を賜り、看護学部看護学科（3年次編入学生を含む）93名、大学院看護学研究科博士前期課程10名、博士後期課程3名が晴れて入学を許可されました。石垣和子学長からは、この度の東日本大震災に際して、被災者の方々へ心からのお見舞いと、被災地で支援している人、被害の拡大を防いでいる人への感謝の気持ちが述べられました。そして、このような時期に入学式を迎えられる学生達に対し、その意義を考えてほしい旨のメッセージがありました。知事からは、石川県も震災への支援活動に取り組んでいることや、学生に対しては、知識と技能を備え、命の大切さ、人間としての尊厳を養ってほしいというお話がありました。今年、本学は石川県公立大学法人としてスタートしました。新入生の皆さんは、この佳き日の喜びと希望の気持ちを忘れず、意義ある大学生活を送ってください。皆さんに対して、教職員一同、教育・支援をしていきます。

教務委員長 林 一 美



大学院入学式



大学入学式

地域課題研究ゼミナール支援事業 最優秀賞受賞

私達は平成22年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告会において「かほく自然塾2010～地域資源を体験する住民交流型ツアーの立案～」について発表を行いました。

かほく自然塾とは、地域活性化型のツアーを通して、かほく市の良さを体感してもらうだけでなく、心身の健康に繋げることを目的とした観光事業です。企画・運営を通して地域の人々や参加者との交流により、看護に必要なコミュニケーション能力や社会人基礎力を向上させることができました。

一方、これらの活動の継続を行うことが課題としてあがり、ホスピタリティの精神や対象を定めた広報活動、他機関との連携などが必要であると考えました。

この発表を行い、参加者と意見交換を行うことにより課題を解決する糸口を掴むことができました。他の大学や地域の人々の意見を聞き、様々な視点から今回の事業をみることができ、これらの経験を今後活かしたいと思えます。

人間科学領域 垣 花 渉



法人化にあたり

この2011年4月1日から石川県立看護大学は公立大学法人化し、石川県公立大学法人石川県立看護大学として、新たなスタートを切りました。

今後本学と県立大学の2大学は石川県が直接に設置・運営する大学ではなく、石川県が設立した石川県公立法人が設置・運営する公立大学になりました。法人本部は県立大学内に置かれ、初代理事長には石川県参与・寺西盛雄、副理事長には本学長・石垣和子、県立大学長・松野隆一、常勤理事には法人本部事務局長・櫻井清隆、非常勤理事には金沢商工会議所前副会頭・梶富次郎が就任いたしました。

法人化の目的は、大学間競争に勝ち抜く魅力ある大学、効率的かつ効果的で透明性の高い大学運営、学生や教職員の教育研究環境のさらなる整備と充実をはかることです。2000年4月の開学以来、本学は豊かな人間性と高度な専門的知識・技術を兼ね備えた看護職者を育成すると同時に、県内の看護教育・研究・地域貢献の拠点として着実に発展してきました。今回の法人化を機に、これまで築いてきた基盤をさらに強固にし、一層の飛躍を旨として再出発いたしました。

石川県公立大学法人設立準備会議委員 浅見 洋

開学記念行事 5月28日（開学記念日 5月29日）

山折氏のご自身の入院経験を通して、多くの医療者は患者に冷たい背を向けると感じてきました。だからこそ、学生の皆さんに伝えたい思いが今回のご講演にはあったのだろうと思います。

生まれ育った地方の言葉（方言）には、伝わる深さがあり、それを感じ、伝えることが大事であると宮沢賢治の「永訣の朝」を引用し説明されました。人に「語る」時には、リズムが大切であり、リズムを生み出すためには、呼吸や姿勢が基本となる。また、「聴く」にあたっては、呼吸や姿勢を整えることが重要である。人の話を単に聴いて、受けとめるのではなく、自分で考えることに意味があると話されていました。

「言葉や治療よりも沈黙の方が癒しになる場合がある」。終末期にある人と落日に肩を並べ、共に何も語らず（沈黙して）、同じ景色を眺め時間を過ごします。相手の気持ちを察し、思いやる気持ちの沈黙の時間であった場合には、それは最大の看取りです。

講演中の山折氏の語り口やリズムは、落ち着いた静かな調子であり、語られる内容は奥深く、我々聴衆は皆、沈黙し、聴き入っていました。

教務委員長 林 一 美



オープンキャンパス

オープンキャンパス2011が7月16日（土）に開催されました。300名の高校生やその保護者ら、また大学院受験希望者の参加がありました。大学内は多くの参加者で賑わい、在学生の協力も得て、盛況のうちに終了しました。

当日は、講堂での大学概要・入試情報等の説明後、6つのテーマから参加者それぞれが選択した公開授業を講義室や看護実習室で受講していただきました。その後、看護学実習・フィールド実習・国際交流の紹介、施設見学、各看護実習室での看護学体験の企画に自由に参加していただきました。また、個別相談コーナーや学生交流コーナーでは、教職員や在学生に入試や受験勉強対策、大学生活について真剣に相談している姿がありました。学生交流コーナーだけでなく、施設見学や看護学体験等さまざまな場面で、在学生が参加者と積極的に交流している様子は和気あいあいとした雰囲気がありました。アンケートによる参加者からの声は「進路の参考になった。オープンキャンパスに来て良かった。」「素晴らしい大学だと思った。ぜひここに入りたい。」など概ね良好でした。このオープンキャンパスが参加者の皆さまにとって本学への理解や関心を深める機会となり、一人でも多くの方に本学の進学を志していただけることを期待しています。

広報委員 木 森 佳 子



新任教員紹介



4月1日から石川県立看護大学の地域看護学の准教授として参りました織田です。出身は愛知県ですが、石川県に来てから10年以上になりますので、少しばかりは石川県の様子もわかるようになったかなと思うこの頃です（冬場の雪が多いと、いまだにめげそうですが…）。これまで在職していた職場でも、地域看護学を教えていましたので、これまでの教育経験も少しは役に立つかしら…と思いつつ…。着任してから感じている印象としては、こちらの大学は看護の単科大学としてアットホームな雰囲気の中で、可能な限り学生さんたちの主体性を尊重しようと様々な教育活動が組み立てられているように思います。また、大学の所在地を中心とした地域との距離がとても近いようにも思います。こうした恵まれた学習環境の中で、学生の皆さんと一緒に、「地域看護」や保健師の仕事のおもしろさを、深く知っていただけることをとても楽しみに思っています。

地域看護学講座 准教授 織田 初江

東日本大震災への保健師派遣に参加して

5月20日から7日間、石川県健康管理活動チームの一員として被災地支援活動に参加し、石巻市で家庭訪問を行いました。私が訪問した地域は、津波の直接の影響は無く、沿岸部に比べると被害の少ない地域でした。その地域は一見穏やかに普通の生活ができている街に見えましたが、実際に訪問してみると震災の影響を大きく受けていることが分かりました。たとえ家屋が無事であっても、身近な人や故郷を失った方、職場ごと流されてしまった方は、とてもつらい思いで生活をしています。また被災者の体験した地震の恐怖についての語りからも被害の大きさを感じ取ることができ、復興には長い時間と継続的な支援が必要であることを痛感しました。

私は、今回の支援活動を通して見た景色や出会った人々の想いを忘れずに、今後もできる限り被災地に目を向けて自分のできる支援を行って行きたいと考えています。

老年看護学講座 落合 庸子



JICA研修員受入れ事業

JICAタジキスタン共和国フォローアップ調査



ゼボニソ（後列）さんが開いたメディカルハウスと帰国研修員

2011年2月12日～25日の期間、JICA北陸の木水さんと山岸先生と吉田で「母と子のすこやか支援プロジェクトフォローアップ調査」でタジキスタン共和国のハトロン州を訪問しました。目的は2005年より6年間にわたって本学で研修された40名の研修員の帰国後の活動を調査することと、今後母子保健システム改善に向けて、帰国研究員をリソースとしてどのような活動に発展できるかを関係機関と協議することでした。各研修員は、研修内容を生かして、担当地区での健康教育を充実させていました。中でも最年少の研修員のゼボニソさんが、他の研修員や家族の協力を得て自宅の一部をメディカルハウスに改造して活躍していたのは印象的でした。タジキスタン国はインフラ整備はじめ、多くの課題を抱えていますが、保健省の副大臣等に本学で研修した人々を貴重な人材として、今後いかに有効活用するかを、検討していただくよう強く要請してきました。最後に研修員の方々が本学での研修時の思い出を、感謝と好意をもって語られましたことをお伝えしておきます。

母性看護学講座 吉田 和枝

JICAパラグアイ日系研修

1936年の日本人の農業開拓を目的としたパラグアイ移住から75年。移民1世の方々の高齢化がすすみ、高齢者福祉に取り組む必要性が高くなったことから、2007年からJICAのパラグアイ日系研修が本学と羽咋市社会福祉協議会で実施されています。

今年7月5日から2ヶ月間の研修でした。研修生は篠藤春美さん。一人の研修生を受け入れるのは初めてで、我々は「1人で学びが深まるだろうか?」「1人で2ヶ月間も過ごせるだろうか?」と心配満載で7月5日を迎えました。ところが、篠藤春美さんは明るい笑顔とたくましいパワー満載で石川県へ入ってこれ、羽咋市の皆さん、大学の関係者の心配はその日のうちに解消した次第です。

篠藤さんは、8才の時にご両親と日本を離れ、苦勞の多かった移民1世の高齢者に尊敬と感謝の気持ちが強く、パラグアイで福祉ボランティアをしています。そのため、「パラグアイになにか生かしたい!」の強い思いで、2ヶ月間、大変積極的に、羽咋市で、大学で研修をされました。今年は発表に学生が参加するなど学生との交流も図れました。日本が変遷の中で造りあげてきた高齢者福祉を、よい形でパラグアイに生かせることを期待しています。

老年看護学講座 高山 成子



ワシントン大学学術交流事業

ワシントン大学客員研究員

7月22日から1ヶ月間、ワシントン大学に客員研究員として研修に行かせていただきました。アメリカの精神医療や看護について精神看護学の先生方にお話を伺ったり、医療施設や社会復帰施設を見学したり、NAMI（精神障害者の家族会）を訪問し、日本とアメリカでは医療や保険のシステムは異なるものの、精神障害者とその家族の抱える問題は深刻であり、私たちの目指す方向性は同じであることを確認しました。

また後援者であるNoel J.Chrisman先生の講義を聴講し、先生がアドバイザーを務める学外のミーティングにも同行させていただき、CBPR（コミュニティ参加型の活動・実践）について学びを深めることができました。

今回私にとっては初めての渡米であり戸惑うことも多々ありましたが、ワシントン大学の先生方やスタッフ、学生の皆さんに助けられながら無事研修を終えることができました。本学の事務局や先生方にもお世話になりました。貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。今回の経験と学びを今後に生かしていきたいと思っています。

精神看護学講座 谷本千恵



Noel J.Chrisman先生と

卒業生に聞く

助産学専攻科進学の実験記



私は、母性看護実習で、実際に分娩に立ち会わせていただいた時に母親と赤ちゃんの生きる力に感動し、助産師を志そうと決意しました。

4年生になり、周りは就職先が決定していく中、自分は受験勉強をしなければならず、もし志望校に合格できなかつたらどうしようと先が見えず、不安になることもありました。

しかし、助産師を目指す友達と励ましあい、先生方からもアドバイスをいただきながら、夏休みも学校に通い勉強しました。その結果、第一志望の浜松医科大学に合格することができ、現在、助産学や分娩介助について演習などを行いながら学んでいます。

7月からは、病院での実習が始まります。産婦さんと赤ちゃんの2つの命を預かることになるため、責任も大きく、不安や緊張でいっぱいですが、産婦さんに心から満足したお産だったと思ってもらえるような助産師になるためにこれからも頑張っていきたいと思っています。

浜松医科大学 助産学専攻科（第8期生）石田悠里

保健師就職の実験記



保健師は1次予防の観点から住民と関わることができるため、病気になる人が減少するように支援することができます。私は住民が住み慣れた場で健康に過ごすことが出来るように地域で関わりたいと思い保健師での就職を決めました。

実際に就職してみて、相手に説明する場合でも専門職として医学的な専門知識と根拠をもとに行うことが重要だと実感しました。また地域の方との関係を築いていくにあたりそれぞれに生活背景や価値観が違い、個々によって対応を変えていく難しさを感じました。

学生時代に学んだことを基礎として今後も勉強し様々な知識を身につけ、地域の方と関わっていきたいと思っています。

金沢市保健師（第8期生）面屋喜美

県外大学病院就職の実験記



私は急性期の看護に興味があったので、三次救急をやっている病院への就職を考えていました。3年生の春休みから就職誌で病院探しをし、その後、興味をもった病院の見学会やインターンシップに参加して絞り込んでいきました。そして現在はICUに配属され、忙しいながらも充実した毎日を送っています。

就職して感じるのは、先輩方が高い知識と技術、プロ意識を持って仕事をしているということです。私自身、就職して半年が経とうとしている今になって少しずつ仕事への責任や社会人としての自覚が芽生えてきた気がします。患者様の命を預かる立場として、知識と技術の向上に努力していかなければならないと考えるようになりました。働いていると、国家試験対策や実習で培った知識がどれだけ浅いか痛感する場面がたくさんあります。私のプリセプター（新人指導担当者）さんはとても根気強く、私を指導してくださいます。一生懸命指導してくださるプリセプターさんをはじめ、職場の先輩方、コメディカルの方々の期待に応えられるよう、地道に努力していかなければと思います。

これから就職をしていくみなさんは期待と不安でいっぱいだと思います。しかし、働くことでまた新しい世界が広がりますよ。私は今がとても楽しいです。お互い自分の夢を実現させるため頑張りましょう!!

横浜市立大学附属市民総合医療センター（第8期生）井上直也

養護教諭特別別科進学の実験記



岡部さん（左）

私は現在、金沢大学養護教諭特別別科で養護教諭になるための勉強を頑張っています。

看護大学では、看護師を目指して勉強や実習に励んでいました。しかしその毎日の

中で、以前抱いていた教員になりたいという気持ちが再燃しました。とても悩みましたが、教員でありながら看護学も生かすことができる養護教諭を目指すことにしました。そこで、専門的な教育系の勉強をしたいと思い別科進学を決心しました。

決心したのは4年生の春で、その頃から国家試験の勉強を始め、夏の終わり頃から別科進学のための勉強を本格的に始めました。秋には、同じく別科進学を目指す仲間と毎日大学で勉強していました。今思い返すと、人生で1番必死に勉強していたように思います。その分、合格発表では人生で1番の喜びを得ることができました。

別科での勉強はとても楽しく、養護教諭への憧れが強くなる毎日です。私も夢に向かって頑張るので、皆さんも勉強や実習と大変だと思いますが、頑張ってください。

金沢大学養護教諭特別別科（第8期生）岡部春香

キャンパスライフ

フィールド実習



私は「高齢者を支えているもの」というテーマで、一人暮らしの高齢者のお宅の訪問と、七塚健康福祉センターで行われている介護予防事業の参加の2か所でフィールド実習をしました。実習では、高齢者とその高齢者を支えている方の様子を間近で見学しました。

この実習で高齢者は地域との協調性が深いということを学ぶことができました。実習前は、不安で困りごとがたくさんあり、誰かに支えられてばかりいるというイメージでしたが、実習で見た高齢者は、地域の方とのつながりを大事にして、互いに協力し合っていました。実習後、高齢者は誰かに支えられているだけでなく、互いに支えあっているということがわかりました。そして、自分の趣味を楽しみ、それを生きがいとして自分の人生を楽しんでいる元気な高齢者の姿を見ることができて、とても良い実習になったと思います。また、フィールド実習はグループで何かを達成することができ、グループの団結力が深まった良い経験でもありました。

1年 白坂 眞子

小児看護学実習 I



私は4日間、小学校で実習をさせていただきました。実習では、これまでの講義で学んだ学童期の児童の成長発達や生活行動などを、実際の児童と照らし合わせて考えることで、深く納得することができました。2年生のクラスを受け持たせていただき、元気いっぱいの児童たちと楽しく関わることができました。具体的には、休み時間の度に一緒に外で鬼ごっこをしましたが、途中からでも参加したり抜けたりする児童の様子が観察でき「仲間同士、自由な交友関係をもっている」ことに気づきました。日々の関わりを通して、私は児童一人ひとりに素晴らしい個性があり、それぞれに応じた関わり方が大切だということも学びました。実習の最終日には、児童の健やかな成長・発達への願いを込めて保健指導をさせていただき、とても貴重な経験となりました。この実習で学ばせていただいたことを今後に生かし、さらに深めることができるように積極的に学習を続けたいと思います。

3年 宮森 浩菜

VI 段階実習（在宅看護学実習・地域看護学実習）



私たち4年生は4月から7月まで地域看護学・在宅看護学実習のため多くの施設に行きました。地域看護学実習では石川県内の保健所・保健センターで、3歳児健診・6～7ヶ月の乳児を対象とした相談で身体測定を行ったり、リハビリ友の会に来られた方々に保健師さんの指導のもと学生が健康教育を考え指導を行ったりしました。また、高齢者や母子を対象にした家庭訪問に同行させてもらうこともありました。そして、在宅看護学実習では訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、高齢者支援センターに行きました。3年生までの実習では病院に入院している患者さんの看護について学んできました。今回は在宅で介護の必要な方、介護予防が必要な方を対象とした実習を通して、退院後、人々が地域で支援を受けながら生活していることや在宅で介護する家族も対象として看護していくという視点が加わり、より広い視野で対象をみるできるようになりました。

4年 明石 侑子

サークル紹介 ボランティアサークル

2年 上野 思惟

ボランティアサークルでは、医療福祉に関連した活動や、地域に根ざした活動を主に行っています。様々なボランティア活動に参加することにより、講義では学ぶことができない、人との関わり方を学んだり、障害を持った人や幅広い年代の方々の物事の考え方に触れたりし、充実した時間をすごしています。このような活動を通して、自己の人間性を育み、視野を広げることを目指しています。

また、県内の他の大学と協力して献血を広める活動を行ったり、一般の方にも病気について知ってもらう取り組みを行っています。将来医療従事者を目指す看護学生として、健康に対する意識を高めることの大切さを学ぶことができればと思っています。

これからも、活動の内容を充実させるとともに幅を広げていきたいです。また、私たちの活動を、学内だけでなく地域の方々にも知っていただく努力をしていきたいと思っています。



海岸清掃及び漂着ごみ調査

第12回看護大学祭

第12回石川県立看護大学大学祭を10月29日(土)、10月30日(日)に開催いたします。

今年のテーマは「看大memorial☆ 心に刻もう、このfestival☆」になりました。現在、いろいろな世代の方が大学祭を楽しむことができ、特に若い世代の方にもかほく市のことや看護の素晴らしさを知っていただけるような大学祭にするため、多くの企画の準備を進めています。

企画の内容としては、講演会、各種の模擬店の出店、献血、お化け屋敷、カラオケ大会、合唱、ハモネプ、バンド演奏、ミスコン、ちびっこダンス、ブラスバンドによる演奏、看護体験などがあります。カラオケ大会は現在出演者募集中ですので、参加されたい方はお気軽にお申し出ください。各種サークルの企画もありますので、是非足を運んでください。

講演会では、かほく市と本学の包括的連携記念事業の一環として城戸真亜子さんをお招きして、「住んでみたいかも、認知症にやさしいまちプロジェクト」というテーマで、シンポジウムを行います。

小さなお子様からお年寄りの方まで多くの方に参加していただき、大学祭を盛りあげていきたいと思っておりますので、ご家族・お友達をお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

【日時】

平成 23 年

10月29日(土) 9:30~18:30

10月30日(日) 9:30~15:00

【場所】

石川県立看護大学



国家試験対策と国家試験結果

4年次生になると、最終学年に履修すべき講義と実習、これまでの学びの集大成となる卒業研究、そして就職試験と国家試験受験勉強など、複数の課題について一度に取り組みねばならないことに苦労しています。クラスの国試対策委員が中心となって、苦手科目の補習講義の計画と依頼、模擬試験の計画と実施、受験日当日のスケジュールの周知等を実施しています。また、6名のアドバイザーを中心に全教員が連携して、年間スケジュールを確認しながら、それぞれについて計画的に取り組めるように学生相談に応じています。

国家試験対策・進路アドバイザー部会長 村井嘉子

平成22年度看護師・保健師国家試験合格状況（第8期生の状況）

区分	卒業生	受験者数	合格者数	合格率	(参考) 全国平均
看護師	81名	81名	80名	98.8%	96.4%
保健師	90名	90名	86名	95.6%	89.7%

地域ケア総合センターから

「こんにちは、地域ケア総合センターです。」

みなさん、こんにちは、地域ケア総合センターです。今年地域ケア総合センターでは公開講座や専門職向けの講座を能登空港で開催することになりました。今まで以上に大学から飛び出してさまざまな地域で研修会を行うことを大切にしたいと考えました。

東洋医学の視点を看護に取り入れた四日順子さんの講義や、摂食嚥下障害の方々へのケア方法に関するCNS直井千津子さんの講義・実習など大変好評でした。地域住民や地元の看護職の皆さまのニーズに応えていきたいと考えています。

人は、地域の中に生まれ、最後まで住み慣れた地域の中で自分らしく暮らし続けることが幸せではないかと思うようになりました。そのためには健康づくりとまわりの（育児から介護まで）支援体制が重要になってきます。この大学が地域の健康づくりへの発信拠点となるよう後半もさまざまな企画をしていきたいと考えています。多数ご参加下さい。

地域ケア総合センター長 川島和代

キャンパススケジュール 2011年度後期

授業開始	10月3日(月)
履修登録受付	9月21日(水)～10月7日(金)
大学祭(看大祭)	10月29日(土)～10月30日(日)
冬季休業	12月25日(日)～1月7日(土)
大学入試センター試験準備日	1月13日(金)
補講・試験	2月24日(金)～3月6日(火)
春季休業	3月10日(土)～3月31日(土)
卒業式・学位授与式	3月17日(土)(予定)

石川県立公立大学法人
発行 ● 石川県立看護大学

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。